



WAAM 株式会社
代表取締役

水谷 航

水谷社長は17歳の時に父親を亡くした。それがきっかけで働き始め、やがて運送業界に身を投じて10年後には独立起業へと至った。社長は父親の逝去で、「明日自分がどうなるかは分からない」と痛感したという。だからこそ、一日一日を大切に、自分ができる最大限のことをしたい。そうした思いで歩みを進め、経験と実績、信頼を蓄積し、道を切り拓いてきたのだ。今日も社長は、今この時を大事に、仲間と共に励んでいる。

**「一日一日を大事にし、笑顔を大事に、
自分ができる最大限のことを行っていく」**

笑顔と実行力で道を切り拓く 注目すべき運送業界の経営者



代表取締役 水谷 航



WAAM 株式会社

福岡県福岡市東区香椎 2-19-16
ユニエル香椎 C201

福岡市を拠点に運送業を手掛ける『WAAM』。同社の水谷社長は運送業に関する豊富な経験と知識、高い実行力、そして笑顔が強みに力強く事業を推進している人物だ。本日はフリーアナウンサーの辻よしなり氏が同社を訪問。社長に詳しくお話を伺った。



——まずは、水谷社長の歩みから。

長崎県の出身です。子どものころからサッカーに打ち込んでおり、高校はサッカーの名門である『国見高等学校』に進学しました。ただ、17歳の時に父が亡くなってしまいました。「サッカーを続けたら？」とも言ってもらえたのですが、父がいなくなったことで自分たちが家計を支えていく必要がありましたし、姉と妹と私の三人で母を支えようという決意、学校を辞めて働くようになりました。

——17歳にして一家を支えるという覚悟を持たれたんですね。

18歳の時には母と相談した上で一人で福岡に出てきたのですが、この時に大きなご縁がありました。サッカーをしていたころの友人の親御さんがかつて『佐川急便』で働いておられ、同社を紹介してくださいました。それで地元の『佐川急便』に面接に行ったところ、偶然にも親戚がそちらにいて。その人は私が面接に行く一カ月前に長崎に転勤してきたそうで、「それだったら一人で福岡に行ってこい、紹介してやるけん」と言ってもらえました。それで単身、住所を頼りに福岡に赴いたという訳です。

——すごい運命ですね。お父様の導きがあったと感じますよ。

私もそう思います。大きなご縁を感じ

ましたし、守られていると感じました。

——『佐川急便』で働いていたころは、どのようなことを目標としておられたのでしょうか。

福岡で一花咲かせたい、大きな男になりたい、という思いを持っていました。当初は『佐川急便』で経営者となることを目標としていましたね。しかし、『佐川急便』ともなれば規模も大きいですし、成し遂げるまでの時間もかかるため、やがて「独立して自分で事業を立ち上げよう」と考えるようになりました。

——スケールが大きいですね！『佐川急便』には何年ほど勤められたのですか。

10年です。お陰様で九州でトップクラスの実績を残すことができ、物流に関して、「自分はここまでできるんだ」と分かってきたので、できることをどんどん増やしていきました。『佐川急便』のブランディング手法からも、大きな学びを得られたと感謝しています。

——やればできる、という思いでどんどん挑戦してこられたんですね。

また、色々な人と関わっていく上で、皆それぞれ様々な夢を持っていることを知ることもできました。そうした皆の夢を応援し、実現への下支えをするためにも、まずは自分が得意な物流の分野で会社を立ち上げて勝負しようと思ったんで

共に励む人たちの
夢も事業化していく

▼『佐川急便』時代に様々な人たちと出会い、皆が持つ夢を応援したいと考えたことが、起業の大きなモチベーションとなったと語る水谷社長。今後の目標を伺う中で、そうした取組についての展望も語ってくれた。

▼例えば現在、『WAAM』の従業員さんの中にはパーソナルトレーナーを志望している人がいる。そのため今後はそちらの事業にも取り組んでいきたい、と社長は考えている。「当社でできることは、全てやろうと思っています。そのために、

まずは自分の得意な物流で勝負し、基盤を築いておきたい」。

▼また社長は、配送業であれ、パーソナルトレーナーであれ、それぞれやりたいことは違っても経営的な観点で見て、事業化していく上では同じものだと考えているそう。自身が「やりたい」と考えていたことが、「実現できそうだ」という手応えに変わる瞬間を目の当たりにしてきた社長。今後はそうした経営的なアプローチについても従業員たちに伝えていく構えだ。

すよ。

——素晴らしいお考えです。社長は『佐川急便』さんでも高い役職に就かれていたのではないですか。

ありがたいことに、そういったお話も頂いていました。ただ、私は5年目くらいから将来の独立を決めていましたから、あまり責任の大きい仕事をしていると、辞めた後に部下たちに申し訳ないという気持ちがあり、現場の責任者などある程度の役職はお受けしたものの、それ以上はお断りさせていただきました。そして会社の方とお話をして2022年末に退職を決め、同年の11月にこの『WAAM』を立ち上げました。

——独立後、従業員さんはどのようにして確保されたのでしょうか。

独立時、後輩が一人ついてきてくれました。『佐川急便』さんにご迷惑を掛けますから、「辞めちゃダメだよ」と言っていたのですが、その後も「ついていく」と言ってくれる人が出てきて、今は10名ほどになりました。ちなみにその後輩がこちらの女性スタッフなんですよ。

——おお、そうでしたか。当時はどのような思いでついていかれましたか？

(ス) 社長は、私が『佐川急便』に入って最初にお世話になった先輩で、教育係として一番近くにいたので、「会社をやりたい」という思いはかねてより聞いていました。それで、独立時には迷いなくついていくことを決めたのです。

——社長はどのような方ですか。

(ス) 周囲をしっかり見直し、部下のことを考えてくださる方です。何か至らぬことがあったときも、一番に動いてくれますし、言いにくいことも中立的な立場から言ってきて、困りごとを解決してくださるんですよ。

——完璧じゃないですか(笑)。部下の方々の存在も、事業推進の大きなモチ

ベーションなのでしょうね。

そうですね。「ついていく」と言ってくれる子たちがいたので、それなら先頭を切って走ろうと思いました。

——事業そのものの調子についてはいかがでしたか。

色々な横のつながりからお仕事を頂くことができました。今つながっている企業さんも皆紹介がきっかけでして、つながりのお陰で、ここまで歩んでくることができました。

——そういうのが、一番安定して強いですよ。

そうですね。本当にありがたく思っています。その感謝を胸に毎日現場に出ています。また社員の皆もしっかり動いてくれていて、本当に助かっています。

——社長は非常に責任感があり、頼れる方だと感じるのですが、そういった姿勢は、どのようなところから育まれたものなのでしょう。お父様の存在？ それともサッカーでしょうか。

全てだと思います。サッカーでは厳しいことにも率先して取り組んできましたし、父のことで言えば、突然いなくなったことで、「明日自分がどうなるかは分からないものなんだ」と痛感しました。

ですから私は、一日一日を大事にしており、皆にも伝えています。この日どれだけ笑えるか、どれだけ自分ができるかを考えて動く。大事な部下や後輩に何かあれば、自分にできないかということを考える。そうして自分にできる最大限のことをしようと思っています。

——深いお考えですね。元気うちにとだけ笑えるかというのは、本当に大事なことだと思います。お話も尽きませんが、最後に今後の長期的な目標についてお聞かせください。

まずは福岡の物流を変えていきたい、という思いを持っています。物流業界でもDX化、システム導入が進んできているので、当社も3年、5年と計画して動いていこうと考えています。また、物流の世界は人が増えてきていますが、一方で運転一つにしても、お客様へのサービスにしても、品質が問われてきていると思います。ですから社員教育に注力して、サービスの質をあげていきたい。そうして社員の質も高く、システム導入も進んでいて、いつでも高い品質でお客様にサービスを提供できるような素晴らしい会社に育てていきたいですね。

(2023年4月取材)

辻よしなり (フリーアナウンサー)



「歩みを進めていく中では、悩むこともたくさんある。けれども『何とかなるだろう』との思いを持ち、笑顔を大事に楽しく仕事に取り組むことを心掛けているという水谷社長。そうしたポジティブな姿勢が、事業を前進させる原動力となったのでしょうか。これからも力強く、仲間の皆さんと歩みを進めていってください！」